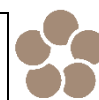




『こもろのひろば こぼれ話』



～郷土の事柄をわかりやすく紹介するコーナーです～

「渋沢栄一 ～小諸図書館との接点～」

2024年に1万円札の新しい肖像となる実業家の「渋沢栄一」ですが、大正時代には講演会を行なうために小諸も訪れていました。その講演会の際、小諸図書館の前身にあたる「財団法人小諸図書館」が控室として使われていました。

大正3年(1914)に小諸の青年団により小諸小学校の旧校舎を借りて財団法人小諸図書館が開館しました。ある時青年団総会に、渋沢栄一の講演会を長野県内の都市を廻る形式で計画し、大正6年(1917)にそれが実現しました。渋沢栄一は同年5月14日に東京から汽車で小諸に到着し、翌15日の午前中に小諸小学校講堂で講演会を行ないました。この講演の内容は渋沢栄一記念財団がホームページで公開している『渋沢栄一伝記資料』でみる事ができます。

この講演会の控室として使われたのが小諸図書館で、大正6年5月16日の信濃毎日新聞に図書館で撮ったと思われる写真が掲載されました。また、この時記念に渋沢栄一に揮毫をして頂いたそうで、当時図書館の主事をしていた林勇は『小諸教育五十年史』の中で、「図書館が出来てから、青年団の幹事会などはここで開かれるようになった。これは拠り所が出来たためでもあろう。その他講演会講師の控室はこと定まって居り、渋沢栄一、若槻礼次郎、鎌田栄吉等の名士が記念の揮毫をしたのもここであった。」と書いています。

2021年1月に図書館で保管している古い資料を調査していたところ、この時に揮毫されたものと思われる書が図書館書庫から発見されました。渋沢栄一が好んでいた言葉で、『成名毎に窮苦日 敗事多因得意時』(名を成すは毎に窮苦の日に在り 事の敗るは多く得意の時に因す)と書かれています。宛名がなく明確な由来は不明ですが、講演会の記念に揮毫して頂いたものが図書館に残されていたと推測されます。

※揮毫(きごう)…毛筆で文字や絵をかくこと、特に知名人が頼まれてかくこと。

当時の信濃毎日新聞には渋沢栄一が講演会を行なった各地での様子が書かれていたよ。「揮毫中の渋沢男」という写真もあって、長野県内の各地で記念の書を書いてもらっていたみたいだね。



こもろのひろば
担当 キート

【参考資料】

『小諸教育五十年史』林勇／著(小諸教育五十年史刊行会 1958年)

『渋沢栄一伝記資料 第57巻』竜門社／編(渋沢栄一伝記資料刊行会 1964年)

渋沢栄一伝記資料デジタル版HP (<https://eiichi.shibusawa.or.jp/denkishiryu/digital/main/>)

『信濃毎日新聞 大正6年5月16・17日朝刊』

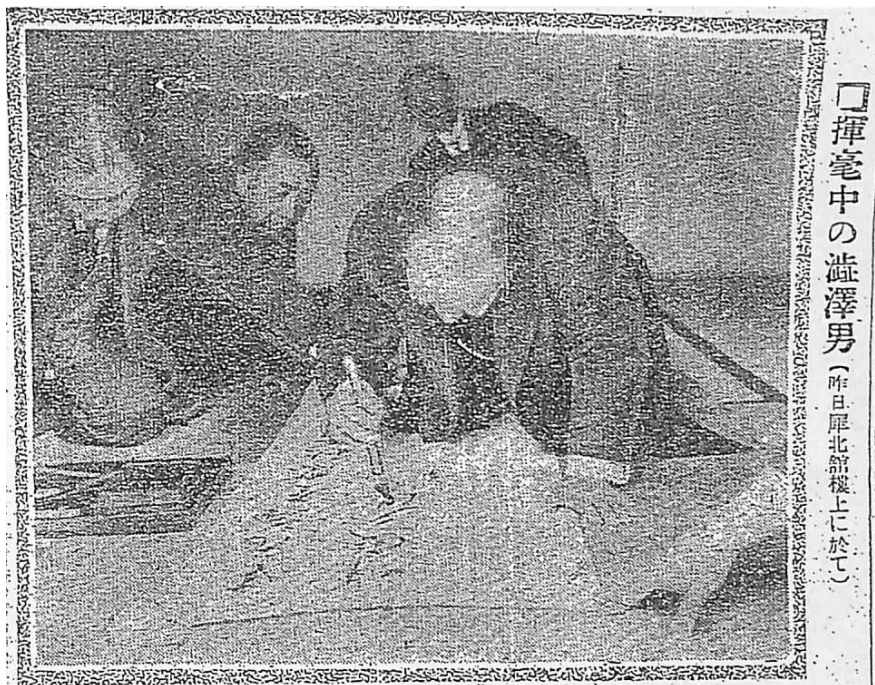


志賀重昂氏と澁澤男

◇昨日小諸町に於て◇

「澁澤男と志賀重昂氏 ◇昨日小諸町に於て◇」

- ・大正6年5月15日に講演会を行なった地理学者の志賀重昂と澁澤栄一
『信濃毎日新聞』（大正6年5月16日 朝刊5面）より



□揮毫中の澁澤男（昨日犀北館樓上に於て）

「□揮毫中の澁澤男【昨日犀北館樓上に於て】」

- ・大正6年5月16日に長野市の講演会で立ち寄った犀北館での様子
『信濃毎日新聞』（大正6年5月17日 朝刊5面）より